

イノベーションを見える化する“技”

第2回

動き方を決めるために、
考えていることを描く

フューチャーマネジメント アンド イノベーションコンサルティング (FMIC) 原田 敦*

*はらだ あつし：チーフコンサルタント 自動車メーカーで設計を経験後、日本能率協会コンサルティングにて開発スピードアップ、商品企画などの領域をコンサルティング、2003年からはFMICにて、主にビジネス板書、フューチャーマネジメントを基軸にしたSHINKA戦略、ANEWプログラムのコンサルティングを実施している。

「イノベーションを見える化する“技”」シリーズの第2回は、「動き方を決めるために、考えていることを描く」「技」を紹介する。仲間を集めて行動に起こすためには、自らの考えに共感、共鳴を得る必要がある。しかし、考え方や思いは見えないものであり、なかなか相手には伝わらない。そこで、考えていることを見える化することが必要になり、考えていることを描く技術を身に付けなければならない。

今回は、考えていることを描き、周りを動かす技術である「ビジネス板書」を紹介する。

ビジネス板書の必要性

今から30年前の設計室を再現してみよう。設計室でドラフターを広げて図面を描いていると、どこからともなく人が集まってきて、「この肉厚はもう少し厚い方が良いのでは?」「このRは、もっと大きくないといけない」という風に、ドラフターの周りでちょっとした図面検討会が日常的に開催されていた(図1)。これは、まさに自分の考えを見える化し、その考えに、集まった人たちの知恵が加わり、レベルアップした図面が完成されている状態である。

しかし、現在は、1人で集中してCADで図面を描いているため、周りからは図面の中にある思考は見えない。その結果、知恵が加わることなく図

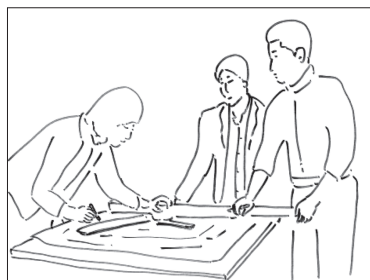


図1 ドラフターの周りで図面検討会

面は完成される。そして、完成された図面に対して検図が行われるが、考え方や思考のプロセスは見えず、淡々と検図が完了するのである。

開発現場にIT化が進み、考え方や思考が見えない時代であるからこそ、それを見える化する技術である「ビジネス板書」の技術が、必要となっている。

ビジネス板書とは

ビジネス板書とは、企業活動において発生する課題をチームで素早く解決するための技術である。ビジネス板書の基本となる技術は、見える化技術であり、議論の見える化、技術の見える化により、課題解決を図る。

「板書」から発想されるのは、教育現場において教師が生徒に向かい黒板で表現する姿であるが、それは、一方通行型の伝達方法である。しかし、本稿で言う「ビジネス板書」は、企業活動において、チームで問題解決をする、双方向型のコミュニケーションである。

1. 空中戦から地上戦へ

パソコンの普及とともに、企業活動における課